

洛西ニュータウン創生推進委員会

活動のあゆみ



ジョウビタキ



西京区・区民誇りの木
ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）



洛西ニュータウンの
沿道を彩るユリノキ



新林本通のケヤキ並木



小畑川中央公園
「らくさいさくら祭」



平成 22 年 3 月
洛西ニュータウン創生推進委員会

第1章 はじめに1

第2章 洛西ニュータウン創生推進委員会の概要1

1. 委員会設立の経緯と活動目的.....1
2. 委員会の目指すまちの姿.....2
3. 委員会体制.....2
4. これまでの取組と今後の方向性.....3
5. 委員・部会委員の構成.....4

第3章 活動状況5

1. 部会.....5
2. 事業運営チーム.....6
3. ワーキンググループ7
4. フォーラム・事例見学会7
5. 広報.....9
6. 活動展開10
7. 活動年表12

第4章 活動評価と今後の展望14



第10回洛西ニュータウン創生推進委員会



第2回まちづくりフォーラム



春の自然観察会

第1章 はじめに

洛西ニュータウン創生推進委員会（以下：委員会）は、平成19年6月の発足から3年にわたる活動を続けています。

委員会では、「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」の実現を目指し、まちの課題に応じた4つの部会を設置するとともに、3つのまちづくり事業を運営するチームが活動するなど、多くの住民が参加して多方面にわたるまちづくりの取組を展開しています。

また並行して、先進地への事例見学会などの調査・研究活動や、委員会の活動の周知や参加の輪の拡大を図るため、ニュースの発行やフォーラムの開催などの広報活動にも取り組んできました。

本冊子は、委員会のこれまでの歩みをまとめ、振り返るとともに、洛西ニュータウンにお住まいの方に、そして洛西ニュータウンの中から外へと委員会の活動を発信することを目的に作成しました。

第2章 洛西ニュータウン創生推進委員会の概要

1. 委員会設立の経緯と活動目的

(1) 「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」の策定

まち開き（入居開始）から30年以上が経過し、自然環境に調和した緑豊かなまちとして誕生した洛西ニュータウンも、時の流れとともに、少子高齢化、コミュニティの希薄化、サブセンターの衰退、土地利用の変化など様々な課題を抱えています。

このような状況を踏まえ、京都市により、平成17年8月に、地域住民や学識経験者、事業者、行政等による「洛西ニュータウンまちづくり検討会（以下：検討会）」が設置され、これからのまちづくりについて検討を行うこととなりました。

検討会では、「洛西ニュータウン・タウンミーティング」、自治連合会をはじめとする各種団体等へのヒアリング、「洛西ニュータウンのまちを考えるアンケート」など住民参加の取組を行いながら、洛西ニュータウンが抱える様々な課題を確認しつつ、議論を重ねてきました。

その成果として、今後向かうべきまちの目標像や、その実現に向けて地域住民、地域に関わっている各種事業者及び行政等が協働して取り組む必要がある課題、方策などをとりまとめた「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」を平成18年11月に策定しました。

(2) 「洛西ニュータウン創生推進委員会」発足

平成19年6月、「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」に示された「緑とゆとりを守り、各世代が支えあい心豊かに共生できるまち」の実現に向け、住民が主体となって洛西ニュータウンのこれからのまちづくりを推進する組織「洛西ニュータウン創生推進委員会」が発足しました。



●洛西ニュータウン創生推進委員会の活動目的

洛西ニュータウン創生推進委員会規約より

(目的)

第1条 「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」(以下「まちづくりビジョン」という。)に示された内容の実現に向け、住民が主体となって洛西ニュータウンのこれからのまちづくりを推進するため、「洛西ニュータウン創生推進委員会」(以下「委員会」という。)を組織する。

(委員会の活動)

第2条 委員会は、次に掲げる活動を行う。

- (1) まちづくりビジョンの実現のための取組に関する協議及び実施
- (2) 前号の取組等に関する広報
- (3) まちづくりに関する調査、研究
- (4) その他まちづくりの推進のため委員会が必要と認める活動

2. 委員会の目指すまちの姿

洛西ニュータウンでは、美しい自然や風景、ゆとりのある緑豊かなまちを守り、育て、次世代に引き継いでいくとともに、各世代がお互いに支えあい交流しながら心豊かに共生するまちを目指します。

緑とゆとりを守り、各世代が支えあい 心豊かに共生できるまち

- ※「まちづくりビジョン」は、まちづくりの主体である居住者全員に発せられたものである。
- ※「まちづくりビジョン」を参考に、住民が主役となってまちづくりのシナリオを創り、実行。

3. 委員会体制

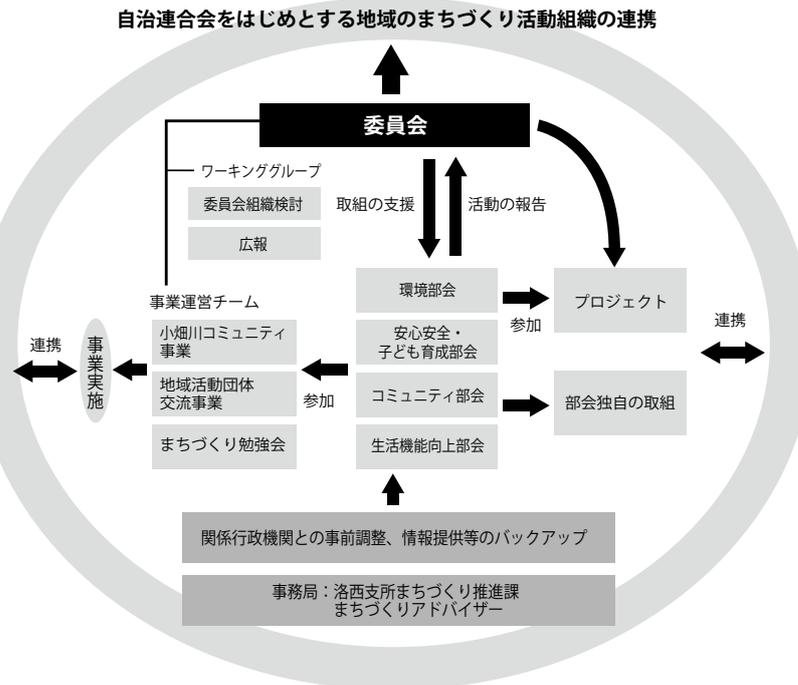


図1 平成19~21年度委員会体制

- 部会：まちづくりの課題についての調査と解決のための企画立案
- 事業運営チーム：まちづくり事業の基本計画及び実施計画の策定並びに事業の実施
- ワーキンググループ：委員会体制と運営方法、広報について専門に調査研究

4. これまでの取組と今後の方向性

【これまでの取組】 初動期：平成19年度からの3年間

まちづくりビジョン推進の主体は住民であることを前提に、委員会の最も重要な役割として、自治連合会、各種団体や多様なまちづくり活動団体・個人が、学区・地域を越えてニュータウン全体で連携するための意識改革と仕組みづくりに着手し、多様な事業を実施しながら、委員会の体制を、活動に適應するかたちへと進化させてきました。

■西京区政策提案事業

「洛西ニュータウンのこれからのまちづくり」～もっともっと魅力あるまちをめざして～
※3年間の支援対象（平成19～21年度）

【今後の方向性】 中長期：平成22年度から

洛西ニュータウンは近い将来、住宅再生等、ニュータウン全体で価値観を共有したうえで合意形成を図ることが必要な課題に直面することが予想されます。それに対応するため、委員会が住民主体による運営を確立するとともに、洛西ニュータウン全体の広域的課題に対する合意を形成する組織として、住民から認知され、信頼を得ることを目標とします。課題の解決にあたっては、自治連合会や各種団体、NPO等や事業者、行政（京都市・洛西支所）、大学、URなど多くの主体との協力や連携が必要となることから、委員会と内外の各主体との広範で緊密なつながりの形成に努めていきます。

（1）まちづくり活動の連携

委員会を基点として、さらに多様な活動団体との連携を深め、より多くの住民がまちづくり活動に参加することを促進し、近隣住区を越えた居住者同士の交流を広げます。

（2）洛西ニュータウン全体のまちづくり

住民が様々な価値観を認識した上で、洛西ニュータウン全体として取り組まなければならない課題について議論し、それを通して価値観を共有します。

（3）洛西ニュータウン全体の運営

住民が主体となって、洛西ニュータウンの持つ「資源」をニュータウン全体の視点で、持続的に運営していきます。

【洛西ニュータウンの資源】

- 緑（緑地、街路樹、緑の歩道）
- 子育て・教育施設
- ゆとり（空間）
- 公的機関
- まちなみ
- タウンセンター＆サブセンター
- 交通機関
- 人材及び人のネットワーク
- 洛西ケーブルビジョン

■西京区政策提案事業

「洛西ニュータウン創生のまちづくり」～住民が主役でまちの魅力を高めよう～
※3年間の支援対象（平成22～24年度）

5. 委員・部会委員の構成

(1) 委員

委員会の委員には、地域から洛西ニュータウン4学区・地域の自治連合会、事業者としてラクセーナ商店会、洛西ケーブルビジョン株式会社、京都市住宅供給公社、行政からは洛西支所のそれぞれの代表者が参加しています。

また、京都大学大学院工学研究科から委員会アドバイザーに就任いただいています。

(2) 部会委員

部会には、各自治連合会からの推薦委員19名と公募委員10名の29名が参加しています(平成22年3月現在)。公募は、毎年1回行い、これまで3回実施しました。

なお、事業運営チームは、部会委員の中から自主的に参画したメンバーにより構成されています。

●部会委員の公募について

■応募資格

- ①原則として洛西ニュータウンにお住まいの方
- ②委員会・部会活動の趣旨に賛同し、一緒にまちづくりに取り組もうという方

■任期

1年度(委嘱の日から翌年の3月31日まで)

■部会委員の役割等

- ①委員会との連携を図りながら、所属する部会の活動全般にわたり、部会の皆さんで協議し、協力しながら、取組を進める。

- ②事業運営チームの活動など委員会全体として取り組む事業の企画、運営に自主的に参画する。

- ③住民や地域のまちづくり団体との情報共有に努め、連携の強化を図るとともに、部会間での交流を広げ、横断的な取組を可能にする。

- ④事例見学会や学習会・報告会に参画する。

- ⑤委員会の要請がある場合には、委員会に出席する。

- ⑥報酬はない。

[委員]

勝本 竹彦(委員長)	新林学区自治連合会
山田 隆義(副委員長)	境谷学区自治連合会
井上 愛子	福西学区自治連合会
島本 栄三郎	竹の里地域自治連合会
新治 光子	洛西ケーブルビジョン株式会社
澤田 博央	ラクセーナ商店会
西川 信行	京都市住宅供給公社
水口 重忠	洛西支所
アドバイザー	
安枝 英俊	京都大学大学院工学研究科助教
事務局	
京都市西京区役所洛西支所まちづくり推進課 まちづくりアドバイザー (京都市文化市民局市民生活部地域づくり推進課)	

(平成22年3月現在)

[部会委員]

部会名	氏名	学区・地域
環境部会	岩倉 紘一(部会長)	竹の里地域※
	芦田 康弘	竹の里地域※
	小野 三千代	境谷学区
	久世 幸男	境谷学区※
	高橋 進	新林学区
	平井 義昌	竹の里地域
	藤原 篤	新林学区※
	山本 治夫	福西学区
安心安全・子ども育成部会	香水 義三(部会長)	境谷学区
	鈴木 綾	新林学区
	玉手 優子	竹の里地域
コミュニティ部会	水谷 郁代	福西学区
	福島 庸浩(部会長)	竹の里地域
	鈴木 日出生	新林学区※
	長澤 修子	竹の里地域
	西村 繁雄	福西学区
	松崎 始	福西学区
	万殿 昭子	新林学区
	水嶋 淳一	境谷学区
	山邊 節雄	福西学区※
	由良 由美子	新林学区
生活機能向上部会	井上 新三(部会長)	福西学区※
	後藤 勝正	新林学区
	田中 弘之	境谷学区
	外村 至	竹の里地域※
	長澤 武夫	竹の里地域
	藤本 廣志	福西学区
	村下 恒雄	境谷学区※
	森田 佳子	竹の里地域※

※：公募委員

(平成22年3月現在)

第3章 活動状況

洛西ニュータウンの将来像の検討にあたっては、各学区・地域が個別に議論するだけでなく、ニュータウン全体レベルで、まちづくりの方向性について議論することが必要です。

「洛西ニュータウン創生推進委員会」は、「環境」、「安心安全・子ども育成」、「コミュニティ」、「生活機能向上」の4つの部会を設置し幅広い視点からの議論を行うとともに、取組の実行にあたっては、委員・部会委員が中心となって、多様な活動団体と連携しながら、ニュータウン全体として動かしていく仕組みとして「プロジェクト方式」を進めることとし、各部会から提案された事業をグループ化し、平成20年7月に「小畑川プロジェクト」、「ネットワーク形成プロジェクト」、「まちづくり強会」がスタートしました。

平成21年度からは、これらのプロジェクトを、委員会の3つのまちづくり事業（「小畑川コミュニティ事業」、「地域活動団体交流事業」、「まちづくり勉強会」）と位置づけ、住民が主体となったまちづくりの取組を継続して展開しています。

1. 部会

各部会の活動方針と活動内容

部会名	活動方針	活動内容
環境部会	<p>自然環境の保全と美しいまちなみづくり</p> <p>「豊かな緑、美しい街路と河川、ゆとりあるまちなみ」は洛西ニュータウンの宝です。これらを守り、育て、次世代に残すための様々なまちづくり活動を推進するとともに、必要なルールの見直しを行う活動を行います。</p> <p>少子化と高齢化に伴う変化を念頭に、勉強会や環境学習活動などを通して、住民の皆さんとともに活動する場にしていきたいと考えています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公園・緑地・街路・河川の維持・美化活動の推進・協力 2. 樹木の景観維持活動 3. 美しくゆとりあるまちなみ景観を維持するルールづくり 4. わかりやすく親しみのある通りの愛称づくり 5. 住宅の住み替え、建替え・改修問題の検討 6. 環境学習活動の推進 7. 「まちづくり勉強会」への積極的参加
安心安全・子ども育成部会	<p>住民同士、互いが創る各世代が共生するまち</p> <p>テーマ：「子どものふるさと創り」 様々な体験を通じて、洛西ニュータウンを故郷と感じてもらおう活動をサポートします</p>	<p>昨年度発足した「子どもまちづくりサポーター」による「子どもたちのためのまちづくり活動」実施に向けてのサポートを行っています。</p> <p>また「小畑川コミュニティ事業」を通じて、体を使う「プレイパーク」、「自然観察会」、手を使う「ネイチャークラフト」、「竹細工教室」など、様々な子ども向けの活動の実施、サポートを行っています。</p>



落ち葉と生ごみを使った堆肥づくり講習会



子どもまちづくりサポーターの活動

<p>コミュニティ部会</p>	<p>地域コミュニティの活性化を目指して</p> <p>地域のコミュニティを支えるため、熟年世代の住民活動への参加を促進します。そのため部会のオープン化を図り、多くの方々が参加し課題を提案できる場にしていきたいと考えています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住民や活動団体（ボランティアグループなど）の交流の場を設置 2. 活動団体の調査を踏まえた団体紹介資料の作成と住民への情報発信 3. 熟年世代の参加による楽しいコミュニティの場づくりの支援 4. 「地域活動団体交流事業」をはじめとする委員会事業への積極的参加
<p>生活機能向上部会</p>	<p>豊かな生活環境の利便性を促進する</p> <p>テーマ① 「サブセンターの活性化」 サブセンターは約30年もの年月を経過し、時代の変遷に適応する必要性・活用方法等の見直しを迫られています。難しい課題ですが、住民の豊かな生活を支援するため、サブセンターの活性化に取り組みます。</p> <p>テーマ② 「洛西ニュータウン内のバス路線改善」</p>	<p>サブセンターの</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 現状の問題点を探り、 ② 今後の課題として、例えば <ol style="list-style-type: none"> a コミュニティの場 b 生涯学習や市民活動の場 c ボランティア活動の場 <p>等々、住民の豊かな生活を支援する施設(場)としての役割を検討します。</p> <p>バス路線の改善については、平成20年のアンケート結果に基づく改善案に沿って、住民の皆さんの利便性とバス事業の採算性を考慮した路線改善に向けて、バス事業者と定期的に会合を持ち、辛抱強く取り組んでいきます。</p>



まちづくり活動団体の調査集約の様子



バス路線住民アンケートに関する新聞記事

京都新聞
平成21年3月8日(土) 朝刊

2. 事業運営チーム

各事業運営チームの活動方針と活動内容

チーム名	活動方針	活動内容
<p>小畑川コミュニティ事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○4学区・地域の交流 (ニュータウン全体の交流) ○多世代間の交流 (多世代の参加と交流) 	<p>緑豊かな洛西ニュータウンのシンボル「小畑川」周辺を、ニュータウンの住民の交流拠点として年間を通じて賑わいを生み出し、「住民による心のふるさとづくり」として親しまれる事業を展開しています。</p> <p>小畑川では、「らくさいさくら祭」などのイベントが多く開催され、環境活動、スポーツ活動等も活発に行われており、連携を深めていくことでさらに交流を広げていきます。</p>
<p>地域活動団体交流事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり活動の情報発信 ○まちづくり活動団体の連携 ○まちづくり活動への住民参加の促進 ○まちづくり拠点の創出 	<p>洛西ニュータウンにおいて活動する団体の調査を進めるとともに、交流会・シンポジウムの開催等を通じて活動の情報発信を行うことにより、まちづくり活動への住民参加を促進しています。</p> <p>また、活動団体同士の交流も深め、ノウハウ・課題の共有を図り、さらなる活動の発展へとつなげます。</p> <p>将来的には、様々な活動団体・個人が気軽に交流できる拠点の創出にも取り組みます。</p>



第3回小畑川コミュニティコーナー
大人の交流広場「赤ちようちん」



第1回洛西ニュータウン
ボランティア・市民活動団体交流会

まちづくり勉強会	<p>○まちづくりに関する専門的な知識の学習</p> <p>○まちづくりの課題についての多様な価値観の共有</p>	<p>「少子長寿化」、「景観」など、様々な価値観が競合し、洛西ニュータウン全体の多様な意見調整を前提に、中長期的に取り組むべき課題について、専門的知識を得ながら、ニュータウン全体の視点で将来を見据えて議論しています。</p> <p>「勉強会」において、価値観を共有していくとともに、戦略的にまちづくりを進めていくための立案へとつなげていきます。</p> <p>「勉強会」は、学識経験者による講演、行政による施策や制度の説明、居住者による取組紹介を基本に組み立てています。</p>
----------	---	---



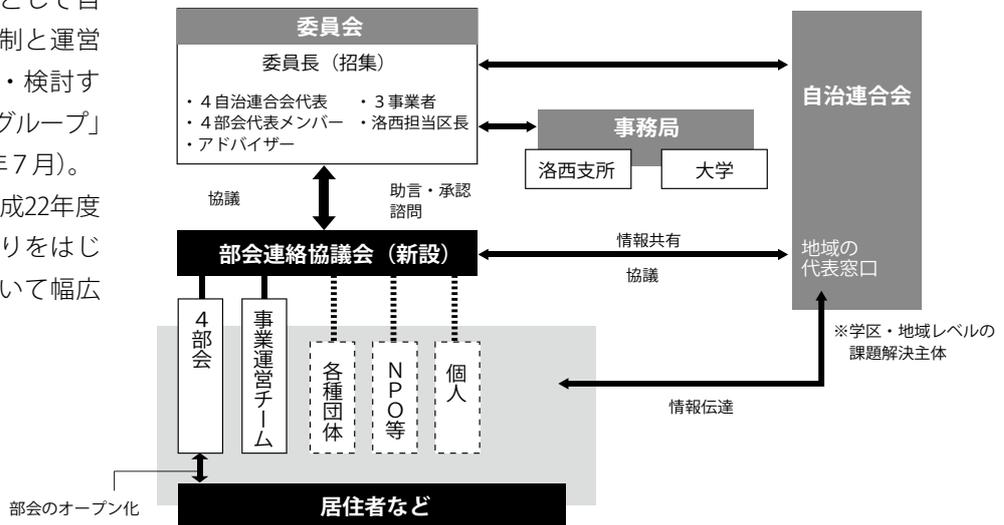
第2回まちづくり勉強会「洛西ニュータウン誕生から未来へ」

3. ワーキンググループ

委員会が洛西ニュータウンのまちづくり活動を連携する組織として自立、持続していくための体制と運営方法について、調査・研究・検討する組織として、「ワーキンググループ」を設置しています（平成21年7月）。

これまで4回開催し、平成22年度以降の組織体制の素案づくりをはじめ、委員会運営の課題について幅広く議論を行っています。

図2 平成22年度以降の組織体制（案）



4. フォーラム・事例見学会

(1) フォーラム

第1回「まちづくりフォーラム」

日時：平成20年3月15日（土）／場所：洛西支所大会議室
（参加者 約70名）

内容

第1部 「まちづくり講演」

テーマ 「地域のつながりを広げるまちづくり」

講師 山口 洋典 同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授

第2部 「まちづくり報告」

- 洛西ニュータウンにおけるまちづくり活動の紹介
- 委員会、部会の取組の紹介

第3部 「まちづくりトーク」

各部会にトークテーマを設定、部会委員の進行により、参加者との意見交換。



第1回まちづくりフォーラム

第2回 「まちづくりフォーラム」

日時：平成21年3月15日（日）／場所：洛西支所大会議室（参加者約80名）

内容**第1部 「まちづくり報告」**

委員会、平成20年度に実施した2つのプロジェクト事業、まちづくり勉強会、4つの部会の活動紹介

第2部 「まちづくりトーク」

テーマ 「あなたから見た洛西ニュータウンのすがた」～住みよいところ、もっと住みよくするためにわたしたちができること～
 ゲスト（福西小学校、洛西中学校の生徒の皆さん／新林社会福祉協議会副会長の佐々木淑子さん）のお話と参加者との意見交換会。

第3回 「洛西ニュータウン創生フォーラム」

日時：平成22年3月13日（土）／場所：洛西支所大会議室（参加者約60名）

内容**第1部 「まちづくり報告」**

委員会、4つの部会、3つのまちづくり事業の活動紹介

第2部 「まちづくりトーク」

テーマ 洛西ニュータウンにおける買い物事情
 ～サブセンターの役割をみんなで考えよう～
 前半 パネルディスカッション
 パネラーとして事業者、地域住民などが参加
 後半 参加者との意見交換会



洛西ニュータウン創生フォーラム

(2) 事例見学会**その1 ニュータウンの“先輩” 千里ニュータウンに学ぶ**

日時：平成20年1月17日（木）

委員会・部会の取組の参考とするため、初の事例見学会として千里ニュータウンを見学しました。日本で初めて本格的なニュータウンとして建設された千里ニュータウンは昭和37年のまちびらきからすでに50年近くが経過し、少子高齢化の進行や住宅の老朽化など様々な課題に直面しています。

見学会では、まちづくりの第一線で活動されてきた方々のお話をうかがい、意見交換を行うとともに、建替の対象となる集合住宅や地域住民の交流拠点などを訪れ、まちづくりを進めていくうえでの貴重な体験を得ることができました。

【参加者の感想から】

- 洛西ニュータウンのサブセンターにも「ひがしまち街角広場」のような多様な世代の集う場所を作りたい。
- 建替についても近い将来の課題であることを実感した。
- 「千里住まいの学校」のような住居紹介等のシステムは洛西ニュータウンでもニーズが高いのではないかと。
- これからのまちづくりは住民提案型による話し合いが大切という話が印象深かった。

その2 住民主体によるまちづくりの“老舗” 真野地区に学ぶ

日時：平成22年2月12日（金）

今後の活動の課題である「活動に適した組織体制の確立」、「活動拠点の確保」などの参考とするため、「住民主体のまちづくり」に取り組む神戸市長田区真野地区の事例見学会を実施しました。

見学会では、まちあるきを行い、真野まちづくり事務所や福祉センターなどの活動拠点の見学を通じて、活動拠点の必要性や求められる機能についてのヒントを得ました。

また、意見交換会では、真野まちづくり推進会が地域の合意を代表する組織に至るまでの経緯や、住民の主体的な活動と行政との連携のあり方等について、真野まちづくり推進会の方から説明をいただくとともに、真野地区に関わるまちづくりプランナーの視点から、今後の活動の参考となる意見をいただきました。

【参加者の感想から】

- 「真野同志会」が基盤となり、次代のまちづくりにおける人材育成に力を入れている点は大変参考となった。
- まちづくりについて行政と対等の立場で話し合いができる組織（真野まちづくり推進会）があることが、住民主体のまちづくりを進める要因ではないかと。
- 住民のまちづくりに対する意識を高める大きなテーマの重要性を認識した（真野地区では“震災復興”が挙げられる）。

5. 広報

●「洛西ニュータウン創生推進ニュース」の発行



号数	発行年月	主な内容
第1号	平成19年8月	洛西ニュータウン創生推進委員会発足
第2号	平成19年10月	4つの取組テーマと部会の設置を決定 部会委員の公募
第3号	平成20年1月	4つの部会が発足
第4号	平成20年3月	「まちづくりフォーラム」開催告知
第5号	平成20年4月	「まちづくりフォーラム」開催報告
第6号	平成20年6月	平成20年度の実行体制の協議
第7号	平成20年8月	平成20年度に取り組むプロジェクトを決定
臨時号	平成20年10月	「小畑川プロジェクト」事業実施に向けて
第8号	平成20年11月	「楽(らく)祭(さい) in らくさい〜小畑川のにぎわい〜」開催告知
第9号	平成21年2月	ホームページの開設、「第1回まちづくり勉強会」の開催、 「落ち葉と生ゴミを使った堆肥づくり講習会」の開催
第10号	平成21年3月	「まちづくりフォーラム」開催告知
第11号	平成21年4月	「第1回まちづくり勉強会」「堆肥づくり講習会」の開催報告
第12号	平成21年4月	「まちづくりフォーラム」開催報告
第13号	平成21年5月	平成21年度の委員会の活動方針を決定 部会委員の公募
第14号	平成21年7月	平成21年度の委員会・部会体制を決定
第15号	平成21年10月	21年度後半の委員会、部会及び事業運営チームの取組、 まちづくり活動連携の仕組(ワーキンググループ中間報告)
第16号	平成21年11月	『西京区民ふれあいまつり』に委員会ブース出展
第17号	平成21年12月	「第3回まちづくり勉強会」開催報告 「第2回小畑川コミュニティコーナー」等開催報告
第18号	平成22年1月	「第3回小畑川コミュニティコーナー」開催告知、 「第1回洛西ニュータウンボランティア・市民活動団体交流会」への参加団体募集
第19号	平成22年2月	「第1回交流会」開催告知
第20号	平成22年3月	「洛西ニュータウン創生フォーラム」開催告知 部会委員の公募

●委員会、西京区役所ホームページでの情報発信

洛西ニュータウン創生推進委員会：http://rakusaint.com/
活動報告ブログ：http://rakusaint.com/wordpress/
西京区役所：http://www.city.kyoto.lg.jp/nisikyô/

洛西ニュータウン 検索

西京区役所 検索

「洛西ニュータウンのこれからのまちづくり」をクリック

●RCV(洛西ケーブルビジョン)による情報発信

- 委員会の様々な活動取材し、放映
- 一般参加できる委員会イベントなどの案内

●市民しんぶん、京都新聞等への記事記載



市民しんぶん西京区版(平成22年2月号)

京都新聞 平成22年1月5日 朝刊



京都新聞 平成22年6月19日 朝刊



6. 活動展開

平成19年
6月

平成19年
11月

平成20年
6月

平成20年
7月

洛西ニュータウン創生推進委員会 発足

4つのテーマに対応した部会を設置

4部会発足

環境部会

安心安全・子ども育成部会

コミュニティ部会

生活機能向上部会

委員・部会合同会議

部会 番号 提案プロジェクト

環境

- 1 通りの愛称づくりに向けた景観イメージマップづくり
- 2 「洛西ニュータウンまちづくり憲章」策定
- 3 市営、府営住宅の改修プロジェクト
- 4 住民による緑地・公園の維持・管理—公園愛護協会の充実—
- 5 地区計画などの景観に関する勉強会の実施

安心安全・子ども育成

- 6 プレイパーク
- 7 小畑川を研究・観察するクラブ
- 8 地域クラブ情報発信

コミュニティ

- 9 洛西ニュータウンまちづくり関係団体のネットワーク化
- 10 居住者の交流の場づくり
- 11 洛西ニュータウン全体で取り組むイベント
- 12 高齢者に対する支援に関する取組

生活機能向上

- 13 既存施設の活用
- 14 バス路線のあり方について
- 15 サブセンターのあり方について

取組の具体化

プロジェクト事業の立ち上げ

プロジェクト 取組内容

小畑川プロジェクト

- 楽祭 in らくさい～小畑川のにぎわい～開催 (H20.11.30)
来場者数：約3,000名 プレイパーク、屋台コーナーなど実施
- 「小畑川プロジェクト」成果勉強会開催 (H20.1.30)
- 「らくさいさくら祭」に広報ブース出展 (H21.4.4・5)
- 「春の自然観察会」開催 (H21.5.9)

⑥ ⑦ ⑩

ネットワークプロジェクト形成

- ニュータウンにおける情報発信手段の調査
- 委員会ホームページの開設 (H21.2.9)
- 西京区ホームページへの掲載
- 「創生推進ニュース」の発行

⑧ ⑨ ⑫

勉強会 まちづくり

- 第1回「まちづくり勉強会」開催 (H21.2.28)
テーマ
「高齢化社会を迎えて安心して暮らせる住環境づくり」
「洛西ニュータウンの美しい自然とまちなみを次世代に継承するまちづくり」

① ② ③ ④ ⑤ ⑬

部会独自の取組 取組内容

公園愛護協会の充実について

- 京都市緑地管理課と協議し、「創生推進ニュース」第8号により結成の呼びかけ。成果として、竹の里公園、大蛇ヶ池公園において結成

4

(環境部会)

バス路線のあり方について

- バス利用アンケートの実施 (H20.12)
配布世帯数 9,341
回収世帯数 2,324
回収率 24.9%

14

(生活機能向上部会)

サブセンターのあり方について

- 地域活性化のための会館利用のあり方について検討

15

(生活機能向上部会)

平成
21年度

平成
22年度～

目標

事業運営チーム、ワーキンググループ
立ち上げ

事業運営チーム 継続実施

事業運営チーム	取組内容	主旨・目的
小畑川コミュニティ事業	<ul style="list-style-type: none"> ●「第1回小畑川コミュニティコーナー」開催 (H21.8.29・30) 樹木クイズウォーク、押し花しおりづくりを実施 ●「西京区民ふれあいまつり」に委員会広報ブース出展 (H21.11.21) ●「第2回小畑川コミュニティコーナー」開催 (H21.11.21) 自然観察会、ネイチャーラフトコーナー、遊びの空間を実施 ●「第3回小畑川コミュニティコーナー」開催 (H22.1.30・31) “赤ちょうちん”、自然観察会、写真展などを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○4学区・地域の交流 (ニュータウン全体の交流) ○多世代間の交流 (多世代の参加と交流)
地域活動団体交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティ部会委員による活動団体の事前調査 (H21.7) ●活動団体への実地インタビュー調査 (H21.8) ●「第1回洛西ニュータウン ボランティア・市民活動団体交流会」開催 (H22.2.7) 15団体が参加 第一会場：活動団体紹介パネル展示・資料コーナー、専門家による活動団体立上げ・運営相談ブースを設置 第二会場：参加団体による意見交換会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり活動の情報発信 ○まちづくり活動団体の連携 ○まちづくり活動への住民参加の促進 ○まちづくり拠点の創出
まちづくり勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ●「第2回まちづくり勉強会」開催 (H21.10.31) 参加者：約80名 テーマ：第1部「洛西ニュータウン誕生から未来へ」 第2部「わかりやすく親しみのある通りの愛称づくり」 ●「第3回まちづくり勉強会」開催 (H21.12.22) 参加者：約40名 テーマ：「少子高齢社会における住まい・まちづくり」 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりに関する専門的な知識の学習 ○まちづくりの課題についての多様な価値観の共有

① 委員会をプラットフォームとして、多様な活動の連携をさらに進め、近隣住区を越えた団体・個人のネットワークを形成します。

② 多様な活動の連携により様々な価値観に触れた団体・個人が、洛西ニュータウン全体として取り組まなければならない課題について議論をする中で、価値観を共有していきます。

この段階を経て、住民が、洛西ニュータウンの持つ「資源」をニュータウン全体の視点で、持続的に運営していくことにより、「緑とゆとりを守り、各世代が支えあい心豊かに共生できるまち」を目指します。

ワーキンググループ	目的	主な検討課題
委員会組織 検討ワーキング グループ	委員会が洛西ニュータウンのまちづくり活動を連携する組織として自立・持続していくための体制と運営方法、広報のあり方について、調査・研究・検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ●組織のあり方 ●財源（自主運営のための資金） ●大学、行政による支援のあり方
広報ワーキング グループ		<ul style="list-style-type: none"> ●委員会ホームページの管理運営 ●「洛西ニュータウン創生推進ニュース」の編集・発行

7. 活動年表

年度	月	委員会	部会			
			環境	安心安全・子ども育成	コミュニティ	
平成19年度	6	① 委員会の発足				
	7					
	8					
	9	②				
	10	部会委員の公募の実施（10月15日～11月2日）				
	11	③ 部会の設置		①	①	
	12		①	②	②	
	1	★ 事例見学会（千里ニュータウン）の実施（17日）	②	③	③	
	2	④ 「ニュータウン人縁卓会議」参加（16日）	③	④⑤	④	
	3	＊ 「第1回まちづくりフォーラム」の開催（15日）	④	⑥	⑤	
平成20年度	4		⑤		⑥	
	5	⑤	⑥	⑦	⑦	
	6		⑦	⑧⑨		
	7	⑥	⑧	⑩	⑧	
	8		⑨		⑨	
	9		⑩			
	10	⑦	⑪		⑩	
	11		⑫		⑪	
	12		⑬			
	1	⑧	⑭	⑪		
	2		⑮		⑫	
	3	＊ 「第2回まちづくりフォーラム」の開催（15日）	⑯＊	⑫	⑬	
	平成21年度	4	⑨＊ 「らくさいさくら祭」に委員会広報ブースを出展	⑰	⑬	⑭
5		部会委員の公募の実施（5月15日～6月1日）	＊ 春の自然観察会			
6		⑩			⑮	
7			⑱	⑭	⑯	
8			⑲	⑮	⑰	
9		⑪	⑳	⑯	⑱⑲	
10			㉑	⑰	⑳	
11		＊ 「西京区民ふれあいまつり」に委員会広報ブースを出展	㉒	⑱⑲★	子どもまちづくりサポーター発足	
12		⑫	㉓			
1			㉔＊	⑳★		
2		⑬★ 事例見学会（真野地区）の実施（12日）	㉕	㉑★	子どもまちづくりサポーターミーティング	
3		＊ 部会委員の公募の実施（3月1日～23日）		㉒★		
22		4	洛西ニュータウン創生フォーラムの開催（13日）			

生活機能向上



楽祭 in らくさい～小畑川のにぎわい～

①

②③

④⑤

⑥⑦

凡例

①～⑳：会議

＊ ＊：イベント、事業

⑧	プロジェクト事業		
⑨	小畑川プロジェクト	ネットワーク形成プロジェクト	まちづくり勉強会
⑩	委員・部会委員合同会議開催／プロジェクト事業の提案		
⑪	プロジェクト事業の立ち上げ		
⑫	①②	①	
⑬	③～⑨	プロジェクトサポーター及び愛称募集	
⑭	⑩～⑬	②	①
⑮	⑭～⑱ ＊ 楽祭 in らくさい～小畑川のにぎわい～ 来場者数：約3,000名		
★	成果報告会（10日）		
⑯	成果勉強会（30日）		
⑰⑱	委員会ホームページの開設		＊ 第1回まちづくり勉強会
⑲⑳			
㉑	事業運営チーム		
㉒	小畑川コミュニティ事業	地域活動団体交流事業	まちづくり勉強会
㉓			
㉔	事業運営チームの立ち上げ		
㉕	①② ＊ 第1回小畑川コミュニティコーナー	①	①
㉖	③	②③	③④
㉗	④	④⑤⑥	⑤⑥ ＊ 第2回まちづくり勉強会
㉘	⑤ ＊ 第2回小畑川コミュニティコーナー	⑦⑧	⑦⑧
㉙	⑥	⑨⑩	⑨ ＊ 第3回まちづくり勉強会
㉚	⑦⑧ ＊ 第3回小畑川コミュニティコーナー	⑪⑫⑬⑭	⑩
㉛	⑨	＊ 第1回洛西ニュータウンボランティア・市民活動団体交流会	⑪
㉜	⑩⑪		⑫
	＊ 第4回小畑川コミュニティコーナー（予定）		

第4章

活動評価と今後の展望



洛西ニュータウン創生推進委員会 委員長
勝本 竹彦

洛西ニュータウン（以下NT）がまちづくりを始めて30余年経ちました。この間、高齢化による人口構成の変化や、ライフスタイルや価値観の変化、さらに地下鉄が通らないという行政面の問題等多くの問題が顕在化してきました。

そこで平成17年に「洛西NTまちづくり検討会」が発足し、タウンミーティングやアンケート調査により「洛西NTまちづくりビジョン」が18年11月に策定されました。

この「ビジョン」を実現するために平成19年6月に「洛西NT創生推進委員会」ができたのです。

手探り状態から始まった委員会ですが、具体的な活動内容の検討を経て4つの「部会」の設立、プロジェクト活動と、それらを実行するメンバーの募集。プロジェクトの継続の必要性から「事業運営チーム」への移行など、活動状況に合わせて組織面での進化がなされてきました。

この3年間の具体的な活動については各部門の報告に委ねま

すが、委員会として全体を見た時、①NT共通の問題点が明確になってきた。②バラバラな感じのあった4学区・地域が課題を共有して検討出来る様になり一体感が出てきた。③活動する人が増えると共に互いに交流出来る様になり、顔の見える活動になってきた。④子供から高齢者まで世代を超えた参加者が得られる様になった。などの成果が得られたと考えます。

これからの活動については、多くの住民が違った価値観を持ち、まとめていくのは非常に大変だと思いますが、①ビジョンを再確認しながら、優先順位をつけ、出来る事から早く具体化する。②住民の多くの意見を聞き、住民同士が議論して反映できる仕組みをつくる。③住宅や、公園、道路、交通などのハードに対する要望が強くなると考えられ、行政との連携を深めて対応を考える。④委員会独自の活動拠点と活動資金の調達を検討する。⑤活動の動きをタイムリーに多くの住民に広報して活動に理解を得る方法を考える。⑥NT以外の住民に対してもNTの魅力を発信して、特に若い世代に関心を持ってもらう。などの活動が必要だと考えます。

何れにしても、出来あがっているまちを変える事は新たに作るよりも、数段の忍耐とエネルギーを必要とすることは確かです。



環境部会
岩倉 紘一

「洛西NTまちづくりビジョン」の戦略「自然環境の保全と美しいまちなみづくり」を着実に推進するという方針の下に、活動を重ねて参りました。

①緑の保全・美化活動の為に「公園愛護協力会」の結成を呼びかけ、新しい3ヶ所の愛護協力会が誕生しました。

②2年目に秋と春の自然観察会を開催し、洛西NTの魅力を感じて頂きました。また「落ち葉と生ごみを使った堆肥づくり講習会」を通じて、資源の有効活用を多くの方々実践されていますのは、嬉しい限りです。

③「勉強会」を通して提案をして参りましたのは、イ) 高齢化を迎えて安心して暮らせる住環境の必要性 ロ) 「地区計画」などまちなみを守る為の大切な仕組みづくり ハ) 「わかりやすく親しみのある通りの愛称づくり」などですが、今後は多様な意見を集約しつつ、推進する為のプロジェクトなどが必要となります。

④洛西NT開発を策定された京都精華大学名誉教授 上田篤先生をお招きし、勉強会にて「洛西NT誕生から未来へ」についての講演を依頼。大変好評でした。

今後ゴミの不法投棄のない「ごみゼロのまち」を目指した取組や、街路樹剪定対応など樹木の景観維持などについて提案をし、問題が顕著になると考えられる「高齢化を迎えた住環境づくり」や「新たな住民を迎える環境づくり」などにも取り組んでいきます。



安心安全・子ども育成部会
香水 義三

団塊ジュニア世代が小学生であったピーク時の最大児童数は4小学校合計で5,685名でしたが、平成17年度の児童数は1,465名と25%に激減しています。

少子高齢化が進み、また屋内でのゲーム中心の遊びによって、公園で子どもたちの歓声が聞こえることが少なくなっています。このような状況にあって、私たちは「住民同士、互いが創る安心安全・子育てのまち」をスローガンに「子どものふるさと創り」をテーマとした活動を実施しています。

平成20年秋に小畑川周辺で実施した「楽祭 in らくさい」では、身体を使う「プレイパーク」、頭を使う「自然観察会」、手を使う「竹細工教室」「ネイチャークラフト」等、洛西ニュータウンの豊かな自然を生かしたイベントを実施しました。これらの経験から、これに参加したホスト及びゲストの皆さんが、ニュータウン全体の行事として認識できたであろうことが大きな成果であったと認識しています。

また、高齢化が進むニュータウンにあって、次世代のボランティア人材の養成は大きな課題です。そのような課題認識の下、平成21年秋に「子どもまちづくりサポーター」を結成しました。これは、大人の引いたレールを走るまちづくり活動ではなく、「子どもの、子どもによる、子どものためのまちづくり活動の実践」を目標に、ニュータウン内に立地する小学校、中学校、高校に通学もしくは居住する学生によって構成され、現在26名が登録されています。今後は、彼らの活動のサポートと共に、活動拠点の確保に向けた取組を実践していきたいと考えています。



コミュニティ部会
福島 庸浩

部会委員が、2年にわたるコミュニティ部会の会議の集約を生かして参画した「小畑川プロジェクト事業」には4部会のメンバーが積極的に参加し、委員会の事業として大きな成果を挙げました。3年目は、洛西ニュータウン内で活動している団体に声をかけて、活動団体の交流を図り、広く市民に知らせる取組の基礎となる団体の一覧表を作成し、実践準備も整えて「地域活動団体交流事業」に参画し、この事業での成果を挙げました。加えて「小畑川コミュニティ事業」「まちづくり勉強会」の3事業に分かれて参画し、“地域コミュニティの活性化をめざして”取り組んだ各事業では、参加した市民に喜ばれ、それなりの成果がありました。

■課題 コミュニティ活性化の拠点となる洛西ニュータウンのまちづくり3事業に部会委員が分かれて参画しました。ところが、各事業では、運営チームのメンバーだけでその事業をこなそうと努力した傾向が強く、イベント当日はスタッフの人数不足で、大忙しでした。前年度の「小畑川プロジェクト事業」のように4部会のメンバーが進んで参加し、事業として連携を密にし総力を挙げて十分な人数で取り組む必要があります。

■今後の展望 これまでの部会の取組を継続します。地域のコミュニティを支えるため、熟年世代の住民活動への参加を促します。そのため部会のオープン化を図り、地域の人材資産である多くの方々が参加しコミュニティの課題を提案できる場にしていきたいと考えています。



生活機能向上部会
井上 新三

洛西ニュータウンの豊かな生活環境の利便性を促進することを、部会の行動基準として1.「洛西ニュータウン内の交通アクセスの改善」について、2.「サブセンターの活性化」についての取組をしております。

昭和51年に開所された私達の住んでいるニュータウンは34年経った今も、まちの中心を流れる小畑川は脈々と流れ、西山は緑豊かに、竹林もその輝きを深めており自然環境は申し分ないところでもあります。しかしながら、当初4万人の人口を目指した計画も平成2年の3万6千人をピークに少子高齢化の社会現象により年々人口が減少しており、現在は約2万8千人の人口となっております。そうした環境の変化から私達の部会は高齢者の生活に不可欠な交通環境の問題点を検討・改善するためニュータウンの皆さんにアンケートをお願い致しました。その結果、①JR桂川駅へ行くバス路線がほしい。②洛西NT内の巡回バスがほしい。との要望が特に強くありました。このアンケート結果を基に要望実現のため京都市交通局との会合を開いています。「サブセンターの活性化」については、住民の高齢化が進み移動手段も限られてくる中で、地域づくりの核となるサブセンターの果たす役割はますます重要になるが、現状と今後の在り方をどのように考えているのか。という市議会本会議での質問もあり、今後は部会でサブセンターの会館利用について利用率を高める方策に取り組んでいきたいと考えております。



小畑川コミュニティ事業
平井 義昌

洛西ニュータウンの中央を貫流している1級河川小畑川は、その兩岸を公園として整備され、水のぬるむ春には約500本の桜が咲き人々の散歩や語らい交流の場となる懐かしいふるさとの川となっています。

小畑川コミュニティ事業チームでは、ふるさとの懐かしい風景としていつまでもふるさと洛西ニュータウンを心に刻んでほしいとの思いで、小畑川を印象づける事業をということで、これまで3回の事業（小畑川コミュニティコーナー）を行ってきました。小畑川の自然を感じ取っていただくよう、自然観察会を催し、緑や小鳥たち昆虫などに触れる機会を持ったり、自然を紹介するパネル展や自然遊び、洛西のまちでは定番の竹を利用した竹細工教室、花や葉っぱを利用したしおり作りやカレンダー作り、写真はがきなどを手がけてきました。また、平成22年1月には4学区・地域の自治連合会や地域団体の方の協力で、住民交流の場として“赤ちょうちん”を計画し、得意の手作りの竹カップで酒を酌み交わし、地域を越えたにぎやかな会話が広がり、またやりたい思いが主催者や地域住民の中に強く感じられました。

母なる川（ボルガではありませんが）として、将来ともニュータウンに住んだ人々には思い出深い場所の印象を持ちつけていただけるような企画をしていくようチームメンバー一同努力してまいります。



地域活動団体交流事業
鈴木 日出生

平成22年2月7日（日）、「第1回洛西ニュータウン ボランティア・市民活動団体交流会」を実施いたしました。これは、洛西ニュータウンの学区・地域を中心に、自らの手で自主的に、また他団体等と協力しながら、地域の問題の解決に向け取り組まれているグループ・団体の状況を調査し、その結果を①洛西ニュータウンの住民の皆さんにお知らせする、②これらのグループ・団体の皆さんに情報交換や交流の機会を提供する、ことを目的とした試みの第一歩です。

当日は15団体（福祉、子育て、環境、地域交流など）に参加いただきました。第1会場（ラクセーナ専門店内イベントプラザ）では、ニュータウンの地域活動団体の生成・発展小史や参加団体紹介パネル展示、第2会場（洛西支所2階大会議室）では、参加団体間の交流及び“いま、私たちの活動がめざすもの”をテーマとした住民を交えての意見交換会を実施しました。

来年度（22年度）の第2回開催に向けて準備を進めるに当たり、先ず、「地域の問題の解決に向け取り組まれている地域活動団体の思い」に対し運営チームが寄与できるとすればそれは何か。それをさらに「運営チームの活動にどのように置き換えるか」と言う点に関し、チームメンバー間の問題意識の明確化と方法論の共有化を図りたいと思います。また、地域活動団体のみならずと運営チームとが、日常的にどのように交流を深めて行くのかも重要な課題だと考えています。



まちづくり勉強会
香水 義三

「ニュータウンにおける多様な意見を前提に、広い視野からの議論が望ましいもの」について、専門家を招いての学習会を実施し、議論を深めていこうという目的で、これまで3回の「まちづくり勉強会」が開催されました。

第1回（平成21年2月）は、(株)地域計画研究所の石本幸良氏より「高齢化社会を迎えて安心して暮らせる住環境づくり」について、「洛西ニュータウンの美しい自然と町並みを次世代に継承するまちづくり」として(財)京都市景観まちづくりセンター中島吾郎氏から「住環境を守るための仕組み」についてお話があり、住まいのまちなみコンクール最優秀賞を受賞

した「西竹の里タウンハウスの取組紹介」について報告がありました。

第2回（同10月）は、「洛西ニュータウン誕生から未来へ」と題して、洛西ニュータウン計画者の上田篤先生から当時の計画理念等のお話等を聞き、「わかりやすく親しみのある通りの愛称づくり」について、洛西ニュータウンの街路樹、通り名認知度、イメージマップ等が紹介されました。

第3回（同12月）は、「少子高齢化における住まい・まちづくり」と題して安枝委員会アドバイザーより説明がありました。

各勉強会とも、参加者からの多様な意見が出され、各課題について理解を深めることが出来ました。

これからも、住民の方々に関心のある身近なテーマを選び、参加者の皆様の活発な議論に資するよう活動を進めていきたいと考えています。



委員会アドバイザー
京都大学大学院工学研究科助教
安枝 英俊

洛西ニュータウン創生推進委員会の活動に関わる中で気づいたことは、ニュータウン内における多くの居住者の行動範囲が、自らが居住する近隣住区とセンター地区に限られており、他の近隣住区を含め、全体のことをよく知っている居住者が非常に少ないことでした。私自身も洛西ニュータウンに20年近く居住していましたが、自らが居住していた近隣住区のことしか知りませんでした。委員会の活動に関わることを通じて、ニュータウンの中に再評価すべき資源が多く存在するのを知りました。

委員会の活動に関わる居住者からも、「他の近隣住区の居住者との新たなつながりが出来た」、「これまで知らなかったニュータウンの魅力に気づいた」といった声が聞かれました。ニュータウン全体に視野を広げることで、居住者同士の新たな

つながりをつくるだけでなく、居住者がニュータウンの課題や資源の再発見をすることができます。

洛西ニュータウンでは、自治会や町内会の活動に積極的に参加する居住者が少なくなっている一方、ニュータウン内の自然資源や景観に関わるまちづくり活動や、高齢者に対するボランティア活動、子育てに関する活動等をはじめとして、居住者が任意に集まって自然発生的なまちづくり活動が始動しています。課題や資源の再発見を通じて、ニュータウン全体で居住者や活動団体をゆるやかにつなぎながら資源運営をする仕組みづくりにつなげていきたいと考えています。個人の価値観が反映された様々な活動がゆるやかに連携することで、多様な価値観が共存するための仕組みを構築することができます。これからの活動ではこの仕組みを活用しながらニュータウンの魅力を広くその内外に情報発信していく必要性を感じています。



京都市洛西担当区長
水口 重忠

新林、境谷、福西そして竹の里で構成された洛西ニュータウンは、小畑川がまちの中心に流れ、街路や公園など緑豊かな環境が形成され、居住形態や周辺地域との関わりの違いによって、それぞれ特徴があります。

まちびらきから30余年が経過し、ニュータウン特有の若年層の流出による急速な少子高齢化の進行とハード面での様々な課題が生じてきています。

そのため一般の地域よりも、個人の価値観の多様化や環境の変化等が著しく、連帯意識の希薄化等ニュータウン全体としての課題が生じてきましたし、全国的にも社会現象となっています。

洛西では、自治連合会を中心とした各種活動も活発ではありますが、同時に、まちびらきの10年後あたりから、多くの

住民の皆さんが福祉活動や環境美化、安心・安全などの様々な取組を積極的に取り組まれております。

まちづくりは“人づくり”であり、住宅建替などのハード面を整備するにも、人とひとの信頼関係が解決したということをお伺いしたことがあります。

本委員会では、様々な課題や問題に対応すべく、学区・地域を越えた交流・連携を深める取組を進めており、皆様が多様な価値観を共有し、お互いをたかめ結びつき、地域コミュニティの活性化と人とひとの絆を深めることを目指しています。

今後、委員会を基点として、さらに住民に開かれたまちづくり活動を実践することによって、住民や団体が、学区・地域を越えた連携と、明日のニュータウンを担う人材の育成が図れるものと思っています。

今後とも、安心・安全の住み良いまちになりますよう、皆様の「地域力」「人間力」に負けないよう「きょうかん」を合言葉に連携・活動してまいります。

洛西支所まちづくり推進課

委員会の活動が活発かつ多様に展開され、まちづくりの輪が広がっていることは、皆さんのまちづくりへの熱い思いあつてのことだと思います。皆さんと、新しいまちづくりの一步から、一緒に携わることができ、「まちづくり推進課」として、やりがいとともに貴重な体験をさせてもらっていると実感しています。これからは、委員会がどのような成果を挙げていくのかが注目されるでしょう。人と人とのつながりを大

切に考える委員会ならでのまちづくりを進めていくためにも、委員会がさらに幅広い住民参加組織へと発展することを目指すとともに、まちの様々な課題の中から、優先順位の高いものに集中して取り組むことが必要と考えます。また、委員会の様々な取組について、融合・連携を積極的に図ることで、最大限の効果を発揮できるような工夫も検討すべき課題です。そして、この洛西ニュータウンの魅力をもっと高めて、広く発信していきたいと思っています。

まちづくりアドバイザー

田尾 純子

この1年間、主に2つの部会と2つの事業運営チームの運営をお手伝いさせていただきました。

それぞれの取組や事業を実施するために議論を重ねるなかで、立場や価値観の異なる部会委員の皆さんがお互いの価値観を出し合い、受け止めたうえで、組織としての価値観を共有し、それにもとづいた取組や事業を実施されていました。

このようなことが可能となったのは、部会委員の皆さんの柔軟性や、「洛西ニュータウンをよりよいまちにしたい」という共通した思い、そして、これまでの2年間、プロジェクトなどを実施する過程で、価値観を出し合える関係を構築されてきたためではないかと思っています。

今後は、そういった土壌を育てつつある洛西ニュータウン創生推進委員会が媒介となって、他の住民やまちづくり活動団体が相互に価値観を共有することを促進し、洛西ニュータウン全体としての新たな価値観をつくっていくことが重要だと考えます。

深川 光曜

日ごろより、委員の皆さんの精力的な活動を拝見し、微力ながらお手伝いさせていただいている立場から委員会の今後についてふれさせていただきます。

委員会の発足からこれまでの3年間は、大別すると「①委員会の体制や仕組みづくり」、「②洛西ニュータウンの課題の抽出と共有」、「③参加の輪の拡大」の3つのことに取り組まれて成果を挙げられてきたと考えています。

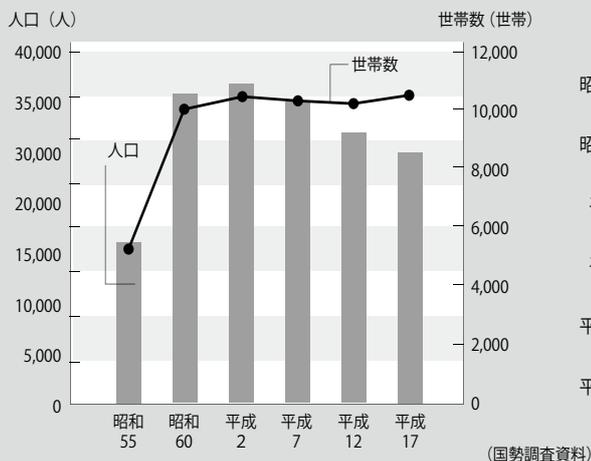
今後の活動を進めるにあたり、「②課題の抽出と共有」から「課題解決に向けた実行」に移していくことが、特に大切だと思っています。多くの課題の解決を委員会だけで取り組むことは困難であり、委員会は、取り組むべき事項の優先順位付けやそれを担う主体（部会、地縁組織、NPOなど）を決めるなど判断を下すことが必要となります。

次年度に設置される部会連絡協議会では、上記の判断を伴う事項の協議が活発に行われるとともに、自治連合会等との情報共有が強化されることを期待しています。

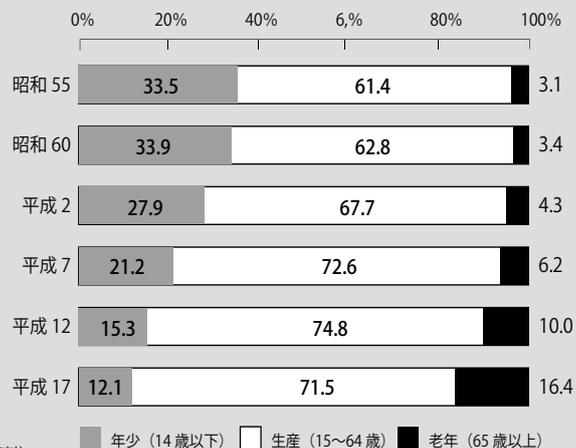
洛西ニュータウンの人口・世帯数等

人口は、平成2年の3.6万人をピークに減少が続いています。また、少子高齢化の傾向が続いており、平成17年での年少人口比率は12.1%、高齢者比率は16.4%となっています。

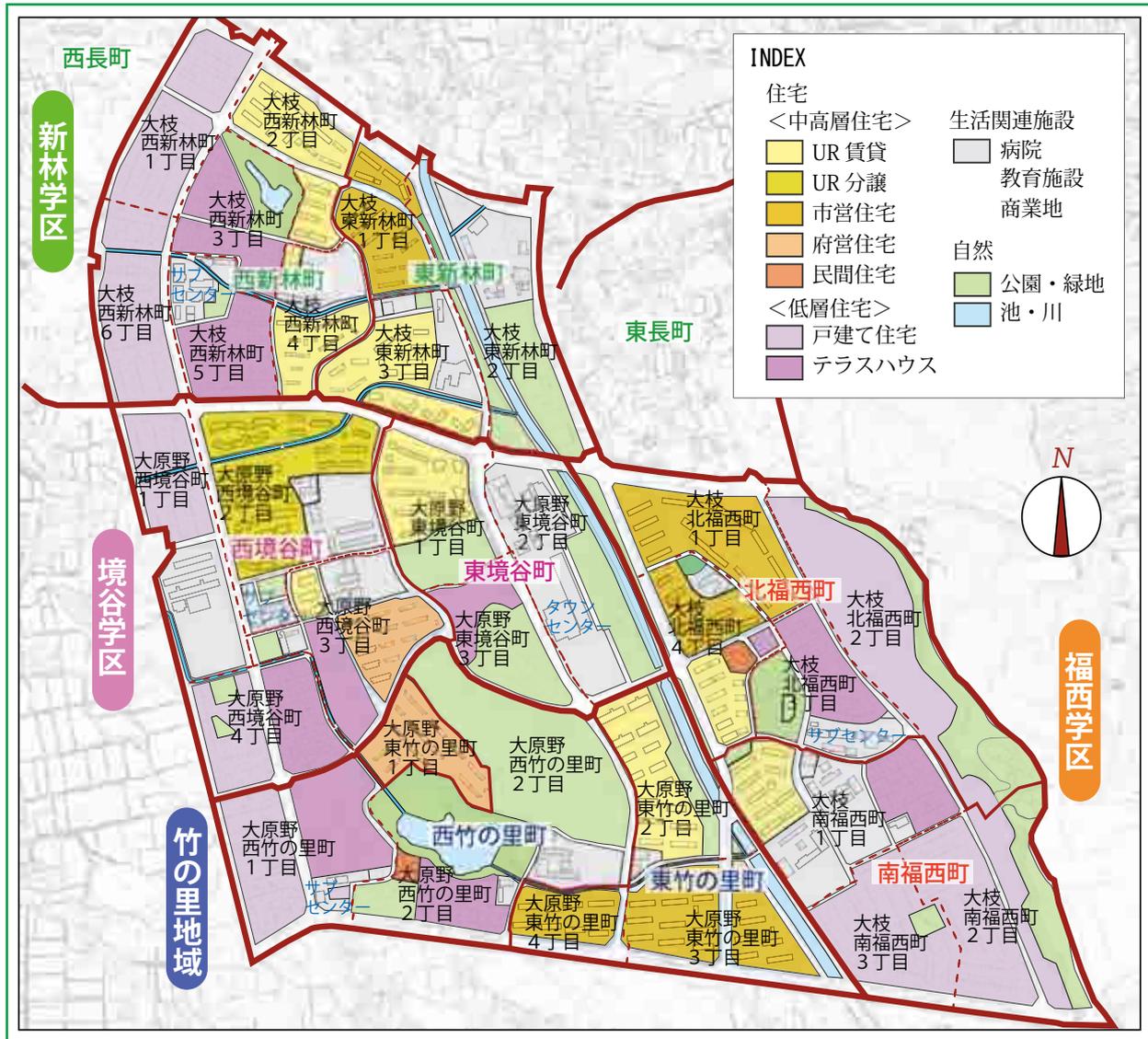
人口・世帯数の推移



年齢階層別人口構成の推移



■洛西ニュータウンの概要



洛西ニュータウンは、京都市都心部から約10kmの場所に位置します。昭和44年に京都市から都市計画決定され、昭和51年から入居が開始されました。計画の具体的な方針としては、自然景観を有効に利用し、公園や緑地の面積を広く取ること、道路計画は完全な歩車分離を目指し、自転車を活用することなどがあげられます。近隣住区論に基づいて、小学校の学区を単位として新林学区、境谷学区、竹の里地域、福西学区の4住区から構成されています。各住区は幹線道路や河川等を境界として区画され、中央部に商業施設や公益的施設を集約したタウンセンターを設け、それを補完するかたちで各学区に1つずつサブセンターが設けられています。サブセンターには住民がさまざまな目的に使用でき、地域のまちづくり活動の拠点となっている会館のほか、スーパーマーケットや店舗などがあります。

昭和44年	5月	都市計画決定・事業決定、用地買収開始
昭和47年	8月	起工式
昭和50年	11月	第1期 宅地分譲開始
昭和51年	9月	入居第1号開始、新林センターオープン 大枝小学校分校（現新林小）開校
	10月	西京区誕生（右京区から分区）
昭和53年	4月	椋原中学校西分校（現洛西中）開校
昭和54年	4月	ニュータウン区域内全道路交通開放 新林小学校南分校（現境谷小）開校
	10月	境谷マーケットオープン
昭和55年	4月	境谷小学校東分校（現福西小）開校、 洛西中学校東分校（現西陵中）開校、洛西高校開校
	11月	福西マーケットオープン
昭和56年	6月	洛西竹林公園オープン
昭和57年	4月	境谷小学校南分校（現竹の里小）開校 ラクセーナオープン
昭和62年		洛西総合庁舎開設、洛西図書館
平成17年	8月	洛西ニュータウンまちづくり検討会発足
平成18年	11月	洛西ニュータウンまちづくりビジョン策定
平成19年	6月	洛西ニュータウン創生推進委員会発足